

# 関西医科大学 広報



応募作品全65点の中から選ばれた入選作品です(撮影:朝子 幹也准教授 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)。

## 創立90周年記念フォトコンテスト 入選作品「春爛漫、枚方」

Vol.45

### CONTENTS

大学：平成31年度医学部入学式・看護学部入学式

P.1

大学：災害に備えるこどものセルフケア能力に関するセミナー開催

P.16

法人：平成31年度入職式

P.8

大学：「生活看護論実習Ⅰ」実習報告会

P.20

法人：大阪歯科大学、常翔学園と包括連携協定締結

P.8

病院：アレルギーセンター公開講座

P.21

## 平成31年度医学部入学式



告辞を述べる友田学長

4月5日(金) 13時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「平成31年度医学部入学式」が行われ、122名の新入生が医学の道への第一歩を踏み出しました。

また、本年から医学部入学試験(一般前期)最優秀成績者に送られる奨学金「藤森民子賞」の授賞式が合わせて執り行われ、第1回の受賞者として和田寛大さんに賞状と副賞500万円の目録が贈呈されました。

### 入学式告辞 (抜粋)

学長 友田 幸一

春爛漫の季節、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

新元号の記念すべきこの年、122名の新入生の皆さんを迎えて、入学式を挙げることは、誠に大きな喜びであります。またご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

皆さんは4,045名の受験生の中から難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、支えてこられたご家族や関係の皆様には心からお祝いを申し上げます。

本学は昭和3年(1928年)に大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立91年を迎え、卒業生総数は8,367名からなる輝かしい歴史と伝統のある大学です。

このキャンパスは甲子園球場が二つ入る大きさで、6

年前にオープンしました。以前は3つに分かれていた学舎をここ一つに統合し、「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の教育・研究施設」、そして「最先端医療を担う附属病院(本院)」が隣あわせに立地し、スカイウェイで直結するまさに超近代的な大学に変わりました。

また昨年、4年制の看護学部と大学院が開講しています。2年後には、リハビリテーション学部の新設や、国際交流センターとホスピタルインを備えたタワー棟の建設、さらに最先端医学研究所の設置などが計画されています。一方、再生医療やがんゲノム医療など学術研究面でも新しい分野に挑戦し、次代の医学・医療の発展への貢献を目指しています。国際的にも本学は、2年連続で世界大学ランキングにランクインし、今年898位になり教員対学生比率は世界第3位。国内の医科系大学での順位はトップ7位、関西の私立大学中2位となりました。2年後の国際大学院構想など「世界に開かれた大学」を目指しています。





一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、患者さんから学ぶ場となります。附属病院は最新、最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。大阪府下でトップにランキングされ、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。

第2の総合医療センターは、病床数477床の地域中核型の病院で、3年前にオープンした超近代的な病院です。国内初のホスピタルガーデンが完成し、公式のサッカー場の大きさに相当する広さとモネの睡蓮を想像させる池など患者さん、地域住民の憩いの場となっています。

第3の香里病院は、病床数199床で地域密着型の病院です。訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンターを備え、地域包括医療を実践している病院です。そして4つ目の附属病院として回復期リハビリテーションを中心とした関西医大くずは病院を昨年1月に開院しました。これに加え予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせると、総病床数は1521床になり、地域包括医療ケア・ネットワークを早くから取り入れ、実践している唯一の大学病院です。これからの「人生100年時代」に向けて、健康長寿すなわち、健康寿命を平均寿命に如何に近づけるかに全力を注いでいます。京阪沿線にそって展開されるこれらの医療施設は「健康沿線<sup>®</sup>」というキャッチフレーズで、大阪北東部、北河内地域の住民の健康と医療・福祉に貢献しています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。

さて、皆さんはめでたく本学に入学され、ホッとされていることと思いますが、大学に入ることがゴールではありません。医師になる2000分の1歩がこれから始まるうとしています。特に初年度は、皆さんの学業生活から将来医師になってからの人生を大きく左右する重要な一年になります。皆さんは「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の世界を選んだことと思います。その気持ちを決して忘れず、医師になるモチベーションを保ち続けて欲しいと思います。

さて、本学の建学の精神は「慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」で、昭和7年に本学2期生の当時19歳だった宮前澄子さんによって作詞された学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、生涯

にわたり地域社会に貢献し、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野をもつ人間性豊かな良医を育成することを教育の理念としています。この精神をひと時も忘れることなくこれからの6年間、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけ、そして病める人の気持ち・感情が共感できる、良医をめざして勉学に励んでください。

さて、皆さんはこれまでの勉強方法を、暗記型から思考型に変える必要があります。これから学ぶ医学知識の量は膨大な数に上り、暗記力中心の勉強法だけでは当然覚えきれぬ量ではありません。本学ではICTを応用した新しい学習システム(KMULAS)が整備されていて、授業の内容が事前にアップされ、これを活用して予習、復習を心がけ、授業で先生の話聞く中で、重要なポイントを正しく理解することが大切です。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性を引き出す場でもありますので、持っている才能や個性に磨きをかけてください。主体性を引き出すカリキュラムを少し紹介しますと、1年生ではノーベル賞を受賞された山中伸弥先生の特別講義があります。将来科学者を目指す人のための研究医養成コースは今年はじめて卒業生を送り出しました。また将来中央省庁など行政技官、医務官を目指す医系技官養成コースを新たに計画しています。6年生では7か国9施設での海外臨床実習留学などがあります。また本学にはたくさんのクラブ活動があります。同窓生からの寄付で牧野の地に完成した新講堂は、武道館を備え、隣接の弓道場も新設されました。部活動を通じて、多くの友人と素晴らしい人間関係を築き、新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。

皆さんの一人ひとりがこの6年間を関西医科大学で過ごしたという何か証しを残して欲しいと願っています。そうすることによって母校愛が芽生えることになるでしょう。但し、勉学と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把握し、本来学べき医学の勉強を最優先することを忘れないでください。

最後は、医学生であると同時に社会人であるという自覚を持って行動してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

最後に、新入生の皆さんは、これから関西医大人としての誇りと自信を持って、勉学に励んでくれることを願います。私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございました。

## 平成31年度看護学部・大学院看護学研究科入学式

4月4日(木) 13時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「平成31年度看護学部・大学院看護学研究科入学式」が行われ、看護学部100名、大学院看護学研究科18名の新生が入学しました。

式では友田幸一学長が「看護学部第2期生としての誇りと気品を持ち、次に続く後輩たちの鏡となれるよう精励してほしい」と、告辞を述べ、学部長・研究科長挨拶では、片田範子看護学部長・大学院看護学研究科長が新生への期待と励ましの言葉を送りました。



新生代表による宣誓

### 入学式告辞(抜粋)

学長 友田 幸一

桜花満開の今日、新生の皆さんご入学おめでとうございます。

新元号の記念すべきこの年、看護学部生100名、看護学研究科大学院博士前期課程12名、博士後期課程6名の皆さんを迎えて、創立2年目の入学式を挙げていきますことは、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

皆さんは厳しい入学試験の難関を突破して見事に合格されました。ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立91年を迎え、卒業生総数は8,367名からなる輝かしい歴史と伝統のある大学です。

今、皆さんがおられるこのキャンパスは、甲子園球場が二つ入る大きさで、6年前にオープンしました。「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の教育・研究施設」、そして「最先端医療を担う附属病院(本院)」が隣あわせに立地し、医学部棟とはスカイウェイで直結するまさに超近代的な大学に変わりました。

創立90年の歴史を迎えた昨年、看護学部の設立を決定したのは、これからの時代を動かしていく医療人には、医学と看護学の両輪が必須であり、双方が互いに協働し、補い合うだけでなく、それぞれの専門性の高い知識と技術を互いに活かし、より高度の医療を実践することが何よりも重要であると考えたからです。

これから皆さんが学ぶ看護学部棟は最新の教育環境と設備が整っていますが、シミュレーションセンター、図書館、食堂など医学部棟のいくつかの施設も共有することになります。2年後には、超高齢社会を意識してリハビリテーション学部の新設や、国際交流センターとホスピタルインを備えたタワー棟がすぐ隣に建設される予定です。

一方、医学・医療の進歩は留まるところを知りません。今年からiPS・幹細胞再生医療やがんゲノム医療など学術研究面でも新しい分野に挑戦し、次代の医学・医療の発展に貢献することを目指しています。国際的にも本学は、2年連続で世界大学ランキングにランクインし、今年898位になり、国内の医科系大学での順位はトップ7位、関西の私立大学中2位となりました。2年後の国際大学院構想など「世界に開かれた大学」を目指しています。

一方、医科大学にとり附属病院は医学・看護学教育の原点であり、患者さんから学ぶ場となります。この学舎に隣接する附属病院は最新、最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。大阪府下でトップにランキングされた病院で、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器を備え、一流のドクターが数多



くおられ、さらに専門的な医療を担ういくつものセンターを備え、今後の疾病の動向、変化に対応した最新の医療が提供できる病院です。

第2の総合医療センターは、守口市の滝井に位置し、病床数477床の地域中核型の病院で、急性期に対応した診療の他、特殊救命救急など、チーム医療を実践する各センターが完備され、診療機能の大幅な強化を行っています。それに隣接して国内では初めてのホスピタルガーデンが完成し、公式のサッカー場の大きさに相当する広さとモネの睡蓮を想像させる池など患者さん、地域住民の憩いの場となっています。

第3の香里病院は、病床数199床で新しい地域密着型の病院です。これからの超高齢社会に対応するため訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンターを備え、介護・福祉にも力を入れた地域包括医療を実践している病院です。そして4つ目の附属病院として関西医大くずは病院は回復期リハビリテーションを中心とした医療を展開しています。これに加え人間ドックなど予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせると、総病床数は1521床になり、地域包括医療ケア・ネットワークを早くから取り入れ、実践している唯一の大学病院です。これからの「人生100年時代」に向けて、健康長寿すなわち、健康寿命を平均寿命に如何に近づけるかに全力を注いでいます。このように京阪沿線にそって展開されるこれらの医療施設は「健康沿線®」というキャッチフレーズで、大阪北東部、北河内地域の住民の健康と医療・福祉に貢献しています。これらの施設が皆さんの臨床・看護学教育の、そして将来の看護師としての活躍の場になります。

さて、皆さんはめでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。看護師になる1500分の1歩がこれから始まろうとしています。特に初年度は、皆さんの学業生活から将来看護師になってからの人生を大きく左右する重要な一年になります。皆さんは「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの看護の世界を選んだことと思います。皆さんはこれまでに人に善いことをしたことがあると思います。その時、相手の方に感謝されたと思いますが、あなた自身も「喜んでもらえて良かった」と感じたことと思います。これはオキシトシンと呼ばれる幸福ホルモンが脳から分泌されるからです。良好な対人関係が築かれているときに分泌され、

善いことをした人もされた人にも出ます。人も含め感情を持つ動物の同類愛の一つの表現のためだからです。このような気持ちを決して忘れず、立派な看護師になるモチベーションを保ち続けて欲しいと思います。

さて、本学の建学の精神は「慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」で、学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、幅広い教養と高い倫理観・人間愛を基盤に、人々の生命・健康・生活を統合した専門的知識・技術を備えた看護力で、社会に貢献できる柔軟な創造力・行動力をもつ人材を育成することを教育の理念としています。

この精神をひと時も忘れることなく勉学に励んでください。そして、学生であると同時に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、看護師としての出発点でもあります。もう一つは身だしなみにも注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

最後に、新入生の皆さんには、看護学部2期生としての誇りと気品を持ち、次に続く後輩たちの鏡となれるよう精励されることを願い、私の告辞といたします。本日は誠におめでとうございませう。



挨拶を述べる片田学部長・研究科長

## 看護学部長・大学院看護学研究科長挨拶

学部長・研究科長 片田 範子

関西医科大学看護学部に入學を許可された100名の皆様、ご入学おめでとうございませう。関西医科大学大学院看護学研究科博士前期課程12名の皆様、博士後期課程6名の皆様、入学おめでとうございませう。この日を迎える



までの時間、日々の学習や勤務の中、入試に向けてさらに励まれ、いくつもの関門をくぐり抜けて来た努力に敬意を表します。また、皆様の大学・大学院への進学を支え見守り応援し続けられたご家族や関係者の皆様にもお祝いを申し上げます。

関西医科大学看護学部・看護学研究科は今年の4月、同時に出発しています。それぞれの課程で今年2回生となった学生は、先輩がいない中、大学の、そして大学院での学生生活を模索し、切り開いてきました。皆様が入学されるのを待ち望んでいたと思います。教職員にとっても皆様を本学にお迎えできるのは大きな喜びです。

さて、教育基本法に「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と位置づけられています。学部入学の皆様は今週末、まさに選挙権を持つ社会人としての第一歩を踏みだし、初めてその権利を行使し義務を果たそうとしておられると思います。看護学、看護学研究科において、看護の専門性を学び深める中で、良き社会人として成長し、成長し続けていただきたいと思います。

さて、看護は人が生まれるとき、亡くなる時、病むとき、そして日々の生活の中での、心身の変化が生じる時、そのことを人々がどう感じ、体験し、反応するかということに気をかけます。看護職は、人々の体験を深く洞察するための知識を持つことが必要となります。それだけではなく、人々が苦しみやその状態を受け入れようとするとき、その人に心を寄せ、その人が持っている力を引き出していくこと、気をかけ、支える力も必要となります。看護学は実践の科学であり、それを実践する技を持つ学問です。

英語圏では育てる Nursing、フランス語圏では人を受け入れる Infirmaries アンフィルミエール、中国語圏では理を持って護る護理と表現されます。慈しみ育てるといふ人類に共通する原点です。

関西医科大学の看護学部・研究科の特徴の一つは「誠実にことに当たり、信念を通して前進する事」だと思います。

私たちはすでに少子高齢社会の只中にあります。地域に住む方々が自ら健康を維持できるような仕組みが必要で制度が大きく変わりはじめています。多くの看護職が、病院だけではなく人々の住む社会の中に進出することが期待されています。まさに何が必要とされるのかを想像

する力と、それに伴ってあらたなものや制度を作る創造力と勇気もとめられています。そのために看護学部では4年間を通して保健師・看護師の国家試験受験資格が取れるような教育課程が組まれており、全国でも数少ない学部です。

学ぶ事が面白いと思って進める環境づくりを教員は果たしていきます。本学の教育の基盤には自由・自律・自学の基本がありますが、皆さんが自らを学ぶことから始まると思います。自分の行動に責任が取れ、社会の一員としての分別を持ち、自分の学び方はこれだと感じたとき、自由・自律・自学の意味が皆さんの中に熟成され始めると思います。

学んだ知識を自らが実践するには感性と実行に移す力が必要となります。それには、まず大いに美しいものを見、楽しい事を感じ、悲しいことも受け止めてあなた方自身そして仲間と向き合うことをお勧めします。自分を信頼し、その自分と関わる人を信頼することを実感して頂けるように教員も関わろうと思っています。

大学院の皆様は、既に軸足を看護に置き、病院や在宅の場で病む人と関わり、自分では健康を維持できない人と出会ってきた体験をお持ちです。博士前期課程の皆様はその体験や知識を深めることで、意識的に看護する方法を創造し、多職種チームを動かせる力を磨いてください。

博士の方々は看護がもたらす人々の健康への効果を、社会が納得できるように、その成果を作り、様々な専門職と共有し、公表してください。

大学院の方々にとって教員はチャレンジを仕掛ける人となるでしょう。既に社会人という立場から一学生になることは想像以上に自分を揺るがすこととなります。しかし、大学院では、そのゆれを体験することから成長が始まります。教員は皆様以上に皆さんを信じる人になると思います。

3課程にいる人たちが同じ学び舎で時間を共有します。学部生も大学院生もお互いを刺激しあう関係を作り出して頂けることを望んでいます。

さいごになりますが、関西医科大学における、看護学部の発足は、これまでの関西医科大学附属看護専門学校の80年を超える歴史につづいていています。時代の要請から生じている変化ですが、皆さんが実習される場でも関西医科大学の看護の先輩方が多く支えていらっしゃいます。この歴史的流れについても思いを寄せ、歩んでいただけるよう願っています。

本日は誠におめでとうございました。

## 解剖学講座主任教授に就任して

解剖学講座教授 北田 容章



2019年4月1日付にて解剖学講座主任教授を拝命致しました。本学の解剖学講座は、開学の翌年から連綿と受け継がれてきた大変長い伝統を有する講座です。この度私とその主宰の重責を担うこととなりますこと、大変身の引き締まる思いであります。

私は東京慈恵会医科大学での医学生時代より解剖学教室に身を寄せ、大学卒業後直ちに京都大学の博士課程に入学しました。京都大学では、各種細胞や生体内分解性材料の神経再生移植効果や、脈絡叢上皮細胞の幹・前駆細胞としての機能を明らかとしました。ダナ・ファーバー癌研究所ではグリア細胞発生メカニズムの研究に従事し、帰国後は間葉系幹細胞からの各種細胞誘導とその移植効果や、ヒト成体由来多能性幹細胞である Muse 細胞の発見に関わる研究を扱って参りました。私の現在の研究の興味は、細胞治療研究に加え、生体内在性の幹・前駆細胞の賦活化による疾患治療の

可能性の追求にあります。魚類や両生類で観察される自発的機能再建の分子メカニズムを明らかとし、ヒトへと応用する方策も模索していきます。

また、最近の解剖学のトピックとして、ご遺体を用いた手術手技研修が挙げられます。私は前任地において解剖学講座の実務担当者として従事して参りました。この経験を存分に活かす所存でございます。

これからの解剖学講座には、従来の卒前教育と研究に加え、卒後・生涯教育への貢献が求められております。そのいずれについても、高いレベルで推進できるよう精進致します。諸先生方のご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 略 歴

1996年 3月	東京慈恵会医科大学医学部医学科	卒業
2000年 3月	京都大学大学院医学研究科生理系博士課程	単位取得後退学
2000年 4月	京都大学大学院医学研究科機能微細形態学	助手
2003年 4月	米国ダナ・ファーバー癌研究所小児腫瘍学	リサーチアソシエート
2005年 9月	京都大学	復職
2008年 4月	東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野	准教授
2019年 4月	関西医科大学医学部解剖学講座	主任教授

## 外科学講座主任教授就任のご挨拶

外科学講座主任教授 関本 貢嗣



2019年4月1日付けで外科学講座の主任教授を拝命いたしました。歴史ある講座を任されることになり、光栄であるとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。関西医科大学と外科学講座の発展のために全力を尽くす所存であります。

私は、1981年に大阪大学医学部を卒業し、消化器外科を専門として参りました。特に腹腔鏡下手術には国内で最も早い時期から力を入れて取り組んできました。中でも大腸癌に対する腹腔鏡下手術では、進行癌症例への適応拡大や単孔式手術への取り組みなど多くの技術開発を行ってきました。また多くの施設での手術指導を行い、日本内視鏡外科学会の技術認定制度の立ち上げに参画するなど外科医教育にも力を入れてまいりました。一方、高度進行大腸癌や再発大腸癌などに対する手術は、周辺臓器の合併切除を要することも多く、

難度は高く侵襲の大きな手術ですが、これらを安全に行うための技術開発もライフワークとしてきました。私の任は、教室の診療レベルの向上を目指すことはもちろんですが、これまで培ってきた技術や知識を若い外科医に伝え、関西医科大学外科の将来を背負ってくれる優秀な人材を育成することと考えています。また外科医を志す者が著しく減少している昨今ではありますが、若者が入りたいと思うような明るく近代的な外科教室を教員とともに作っていきたくと考えています。皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。

### 略 歴

1981年 3月	大阪大学医学部	卒業
1995年 5月	大阪大学第二外科学講座	助手
1999年 11月	大阪大学大学院医学系研究科病態制御外科学講座	講師
2004年 9月	同	助教授
2005年 10月	大阪大学医学部附属病院	病院教授
2012年 7月	国立病院機構大阪医療センター	がんセンター診療部長 兼 外科科長
2014年 4月	同	特命副院長(病院整備担当)
2016年 4月	同	副院長 兼 医療安全管理部長
2019年 4月	関西医科大学医学部外科学講座	主任教授

## 看護学部教授に就任して

看護学部地域看護学領域教授 上野 昌江



2019年4月1日付で看護学部地域看護学領域の教授を拝命いたしました。開設2年目となる関西医科大学看護学部・看護学研究科で新たな教育、特に地域(コミュニティ、医療機関、さまざまな施設等)で生活する人々を理解することを基盤とした看護教育に参画させていただくことができ、身が引き締まる思いがしております。2018年4月の看護学部・大学院看護学研究科の開設から1年遅れの着任になり、これまで学生、教職員の皆さまに多大なご配慮をいただき深く感謝いたします。今後、関西医科大学の新しい看護学教育に真摯に取り組んでいく所存でございます。

私は地域看護学を専門とし、看護師・保健師教育、少子社会の課題である子どもたちの健やかな発育・発達を目指した「切れ目ない子育て支援」、子ども虐待

予防に向けての、教育、研究、社会貢献に取り組んでまいりました。その中で看護職は、地域のなかでさまざまな『生きづらさ』をもち生活している人々をいかに理解することができるかが大事であると確信しています。それはまさに関西医科大学看護学部・看護学研究科が大事にしている地域で生活する人々をいかに理解していくかということに通じます。学生とともに地域の方々から学び、新たな看護職育成に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻くださいますようよろしくお願い申し上げます。

### 略 歴

1978年 3月	高知女子大学家政学部衛生看護学科卒業
1978年 4月	国立小児病院 看護師
1982年 3月	日本女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修了
1982年 4月	大阪府立母子保健総合医療センター 看護師
1984年 4月	大阪府和泉保健所 保健師
1994年 4月	大阪府立看護大学看護学部 講師
1998年 4月	大阪府立大学看護学部 助教授
2003年 7月	保健学博士(東京大学大学院医学系研究科)
2005年 4月	大阪府立大学看護学部(2012年～大阪府立大学大学院看護学研究科) 教授
2019年 4月	関西医科大学看護学部地域看護学領域 教授

## 退任にあたって

解剖学第一講座前教授 山田 久夫



2000年7月に解剖学第一講座に着任しほぼ19年が経ちました。講座では代々、学際的・先端的組織学手技を用いた解析で国内外をリードしてきましたが、私もこの伝統を引き継ぎ、3次元電顕と3次元プリンターによる再構築解析、質量顕微鏡法、分裂細胞の組織化学などの斬新な研究手技を応用し、大きな成果を得ることができました。一方、教育改革にも取り組み、私自身の経験から得た教育理念をつらぬきましたが「教育にも熱心に取り組む」という講座の伝統を守れたのではないかと考えています。

大学運営面で附属図書館長・産学連携知的財産統括室長・学生部長を務めた以外に、思い出深い業務があります。1つ目は、建学時に立ち戻って策定する「建学

の精神」成文化委員会で、本学がわが国で最初の「男女共同参画」を説いた点を紹介できたことです。2つ目は、21世紀COEプログラムで、数人の教授ボランティアで学長や大学院教務部長を補佐し、仕組みや採択基準の調査、申請書・資料の作成等をおこないました。無事獲得できたプロジェクトは私自身の研究にも寄与できました。3つ目は「戦略的大学連携」で、立命館大学と組んだ新たな方式の大学院連携の調査です。北欧の実情視察のために、事務の方と共にスウェーデンに出張し、有意義な経験を積むことができました。途中で遭遇した飛行機事故も忘れられない出来事となりました。

充実した大学人生活を送ることができ、皆様のおかげと感謝いたしております。関西医科大学の更なる発展を祈念いたします。



## 平成31年度入職式

4月1日(月)9時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成31年度入職式」が行われました。本年度は任期付助教(後期研修医)以上の教育職107名、看護職184名、医療技術職29名、事務職16名の計336名が入職し、列席した新入職員たちで加多乃講堂は満員となりました。

冒頭、山下敏夫理事長の訓辞では、日本の医学・医療の現状に関して説明され、また濱地藤太郎によって創設された大阪女子高等医学専門学校に始まる本学の歴史、昨年行われた創立90周年記念式典、特定機能病院を含む5医療機関を持ち日々さらなる発展を続ける本学の現状が紹介されました。続けて私立医科大学としての本学の使命に触れつつ「建学の精神である『慈仁心鏡』を基盤に、教育・研究・診療に励んでほしい」「『夢』を持ち、『夢』を語り、『夢』を叶えてほしい」と語りかけ、新入職者たちは神妙な面持ちで耳を傾けました。

続いて、教育職を代表して外科学講座関本貢嗣教授、看護学部上野昌江教授の2名が、看護職を代表して木吉

美里氏、医療技術職を代表して坂本凌氏、事務職を代表して森岡平大氏が、山下理事長から交付される採用辞令を受け取りました。

その後は、入職者を代表して附属病院看護部の藤原彩香氏が「身の引き締まる思いであり、期待に応えられるよう励みたい」と答辞を述べ、入職式が幕を閉じました。



辞令を手渡す山下理事長

## 学校法人大阪歯科大学、学校法人常翔学園と包括連携協定を締結

本学は、学校法人大阪歯科大学(理事長：川添堯彬)・学校法人常翔学園(理事長：久禮哲郎)とで、包括連携協定を締結し、1月22日(火)14時から本学枚方学舎医学部棟13階応接室において、協定書締結式が行われました。

本協定は、相互に連携・協力することで医・歯・薬・工の分野における学術及び教育・研究の一層の充実を図るとともに、地域社会と国際社会の発展に貢献する取り組みに関するもので、具体的な事項は協議会を設置し、連携・協力を行います。協定の主な内容は次のとおりです。

- (1)学術及び教育・研究の推進に関すること。
- (2)地域貢献に関すること。
- (3)産学連携に関すること。
- (4)国際交流に関すること。

- (5)学生及び教職員の交流に関すること。
- (6)施設の相互利用に関すること。
- (7)授業の共同実施及び単位互換に関すること。
- (8)経営の効率化に関すること。



協定書を手を持つ山下敏夫理事長(中央)

## 日本初の「男性尿失禁外来」開始に伴う記者会見実施

1月7日(月)枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、日本で初めてとなる“男性の尿漏れ専門”の外来診療枠「男性尿失禁外来」が附属病院に設置され、その設置経緯や患者体験談を紹介する記者会見を実施しました。

まず腎泌尿器外科学講座木下秀文准教授が、尿失禁の原因や治療法について説明したのち、当該外来の担当医である腎泌尿器外科学講座杉素彦講師が尿失禁を防ぐために行う術式「人工尿道括約筋植込術」とそれによる治療効果や治療成績、患者満足度について説明しました。

その後、人工尿道括約筋植込術を受けた患者さんが登壇し、木下准教授の質問に答える形で、手術を受けることになった経緯や手術後の経過、手術を受けたことによる利点などについてご自分の言葉で語りました。

なお、当外来は1月5日(土)から、隔週で附属病院の外来診療枠(予約制)として設置されています。

## 関医訪問看護ステーション・滝井、関医ケアプランセンター・滝井、関医デイケアセンター・滝井開設

1月に、関医訪問看護ステーション・滝井、関医ケアプランセンター・滝井が、3月に関医デイケアセンター・滝井が開設されました。

### 関医訪問看護ステーション・滝井

住み慣れた地域やご家庭で安心して療養生活を送っていただけるよう、看護師、療法士がご自宅を訪問し、大学病院クオリティの看護やリハビリテーションを提供します。

サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・栄養・服薬指導</li> <li>・清拭・入浴・排泄の介助</li> <li>・医療機器の管理・処置</li> <li>・リハビリテーション</li> </ul>	
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険をご利用の方 介護報酬に応じた自己負担 (1割～3割負担)</li> <li>・医療保険をご利用の方 診療報酬に応じた自己負担 (保険証により負担割合は異なります。)</li> </ul>	
その他料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通費 【自動車を使用した場合】 事業所から8kmを超えるごとに200円</li> <li>【通常の訪問地以外の場合】 交通費の実費</li> <li>・保険適用外の衛生材料費 実費</li> </ul>	

### 関医ケアプランセンター・滝井

要介護者・要支援者等が介護サービスを適切に利用できるよう、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、介護保険申請などの代行、介護サービス計画(ケアプラン)の作成、及び在宅サービス事業者との連絡調整を行います。

たとえ介護が必要な状態になったとしても、地域住民のみなさんが少しでも健康でいきいきと安全で快適な生活が続けられるように、地域の医療や介護など関係各機関と連携し、サポートします。

### 関医デイケアセンター・滝井

総合医療センター内に設置された短時間のリハビリ特化型施設で、経験豊富な医師や作業療法士、理学療法士が密接に連携し、患者さんの症状や目標にあわせた大学病院クオリティのプログラムを提供します。

要支援者・要介護者の方を対象に、自立した日常生活の維持を目的としており、リハビリテーション科の医師が常駐しているため、安心してリハビリに取り組んでいただけます。

身体の機能回復にとどまらず、心身ともに明るく、自分らしい生活を送れるようにサポートします。



デイケアセンター・滝井

ご利用料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護報酬に応じた自己負担1～3割</li> </ul>
ご利用可能な方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険をご利用の方(要支援・要介護ともに可能)</li> </ul>



## 「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わりまして心より御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自立・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。これからは、医学部と昨年開設いたしました看護学部とともに医学と看護学が両輪となり優秀な医療人を育成してまいります。

昨年度は創立90周年を迎え、施設設備整備事業として、枚方キャンパスに看護学部棟、総合医療センターにホスピタルガーデン、牧野キャンパスに武道館と弓道場がそれぞれ竣工いたしました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。本年は、国際交流センターとホスピタル・インの機能を備えた本学のシンボルとしてタワー棟の建設を進めており、今後はリハビリテーション学部の設置、附属病院のリニューアル、最先端医学研究所の設立を予定しております。

近年の医療は益々多様化、複雑化してきており、これに応えるためには教育・研究・診療施設設備のさらなる整備と拡充が必要となっております。斯かる経費を自己資金で賄うには限界があり、皆様のご支援、ご協力なくして達成できるものではありません。本学の一層の発展のため、本年度も下記のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 【募集要項】

#### 1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他

#### 2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出(送付)いただいたうえで、本学指定の銀行口座に振込み、又は、ご持参ください。

最大40%が減額されます

### 【税制上の優遇措置】

#### ●個人の場合

##### ■所得税(どちらか一方の制度を選択)

##### (A)所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

##### (B)税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

##### ■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。

詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

#### ●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

### 【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344 メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP: <http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

なお、この募金の応募は任意です。

## 関西医科大学創立90周年記念事業募金

創立90周年記念事業募金は平成31年3月31日をもって終了いたしました。皆様からの温かいご支援に対し厚く御礼申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載をお控えさせていただきます。



# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	1月4日	関医訪問看護ステーション・滝井、関医ケアプランセンター・滝井、開設	
	1月19日	第15回医療健康セミナー	
	1月22日	学校法人大阪歯科大学、学校法人常翔学園と包括連携協定を締結	
	2月16日	第16回医療健康セミナー	
	3月1日	関医デイケアセンター・滝井開設	
	3月16日	第17回医療健康セミナー	
	3月30日	関医・看護師リカレントスクール説明会	
	4月1日	平成31年度入職式	マヒドン大学学生来学
大学	1月16日	大学災害避難訓練実施	
	1月29日	退任教授最終講義	
	2月7日	「生活看護論実習 I」実習報告会	
	2月11日	看護学部・看護学研究科 新設記念講演会開催	
	2月18日	チュービンゲン大学留学生来学	
	3月13日	業務改善コンテスト	
	3月4日	マヒドン大学学生来学	
	3月6日	平成30年度医学部卒業式	
	3月6日	研究医養成コース修了式	
	3月16日	「自然災害に備えてこどもの力を高めるために」セミナー	
	3月26日	平成30年度留学研究賞授与式	
3月26日	医学会賞贈呈式		
3月26日	平成30年3月度大学院学位記授与式		
4月4日	平成31年度看護学部・大学院看護学研究科入学式		
4月5日	平成31年度医学部入学式		
			地域連携フォーラム
病院	2月23日	地域連携フォーラム	
	3月2日	北河内がん診療ネットワーク協議会講演	
附属病院	1月7日	尿失禁外来開設記者会見	
	1月19日	市民公開講座	
	2月9日	アレルギーセンター市民公開講座	
	2月15日	死戦期帝王切開術シミュレーション訓練	
	3月2日	脳神経外科公開講座	
	3月18日	TAVI治療開始	
3月29日	業務改善コンテスト	北河内がん診療ネットワーク協議会講演	
総合医療センター	2月3日	アレルギーセンター市民公開講座	
	2月15日	大阪府がん予防学習活動講師派遣	
	3月12日	収支改善コンペティション	
	3月22日	合同災害対応訓練	
香里病院	3月7日	業務改善コンテスト	
附属看護専門学校	3月4日	平成30年度看護専門学校卒業式	
卒後臨床研修センター	3月25日	平成30年度臨床研修修了式	
	4月1日	平成31年度初期臨床研修医入職式・オリエンテーション	



## 平成30年度医学部卒業式



学位記を授与する友田学長

3月6日(水) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「第65回医学部卒業式」が執り行われました。式冒頭、今年卒業を迎えた112名の卒業生が保護者や来賓、教職員のあたたかい拍手に迎えられて入場。学歌「のぞみ」斉唱の後、友田幸一学長から学位記が直接手渡されました。また、卒業生たちは学位記を手に、友田学長の告辞を傾聴。卒業生総代の答辞では、社会人として、また医師として社会に出る覚悟と決意、そして教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への感謝の言葉が語られました。

### 卒業式告辞

学長 友田 幸一

うらかな ひかり輝く 学徒の旅立ち

春もまじかの今日の良き日に、第65回関西医科大学卒業式を挙行できますこと、この上ない喜びであります。

87回生の卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席賜り、錦上花を添えていただきましたご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

本日、ここに男子66名、女子46名、計112名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。

さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

この一年は、皆さんにとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思えます。卒業試験など厳しい試験地獄に耐え、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでのたゆまぬ努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思えます。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思えます。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学

び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。「少しでも気になることがあれば、もう一度確認をすること。決してそのまま見過ごさないこと。——最後に困るのは自分ではなく、患者さんです」。そして私がいつも言ってきたように、「自分が患者になった時に、自分のような医師に診てもらいたいのか？」を常に忘れないようにしてください。初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界の動向として、少子高齢化とともに2025年の日本は、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という人類が経験したことのない超高齢社会に突入します。さらに2030年頃には人生100年時代が到来します。こうなると疾病構造も変化し、新たな医学・医療が必要とされるだけでなく、在宅・介護・福祉も強化する必要があり、高齢者の尊厳の保持と、自立生活支援を目的とした「地域包括ケアシステム」が求められます。関西医大は、すでに附属の4病院に地域医療を支える体制を整えつつあり、皆さんは、高度先端・専門医療だけでなく、新たに地域医療に必要な知識を学び、経験を積むことができます。

一方、第4次産業革命とも言われる「超スマート社会(Society 5.0)」、すなわちIoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展することが予測され、その時代を見据えた医療、研究が必須となってきます。大学院教育ではこの時代を生き抜くために数理・データサイエンス、ロボット医療などの分野で必要な人材の育成に力を入れようとしています。

しかし技術革新は必ずしも病める人たち全てに恵みをもたらすものではなく、忘れてはならないのは病める人に何ができるか、何が最良かを「医の原点」に立ち返って考えることが必要です。卒後2年間の初期研修でプライマリーケアを学びながら、患者さんと共に最良の医療を実行できる医師になってください。

次に、初期研修を終えた後の進路が大切で、皆さんの

医師としての将来を決定することになります。修了後は、皆さんが育った本学で高度な専門臨床教育を受け、まず専門医になってください。そして、その後は大学病院でこそ実現可能な臨床研究や、大学院に入り学位を取ることや留学することは自身のキャリア形成において極めて意義のあることです。今年から新しいiPS・幹細胞講座を中心とした再生医療や、ゲノム部門を中心としたがんゲノム医療など、次代を見据えた分野の臨床研究もいよいよスタートします。志を高く持って科学に根差した医療を実行して欲しいと思います。その他女性医師のための「短時間労働正職員制度」や保育所の設備・拡充も整っています。

本学は昨年創立90周年を迎え、さまざまな事業を展開してきました。今後は、国際交流センターとホスピタルインの機能を備えた100メートルを超えるタワー棟の建設や最先端医学研究所の設置等を次々と計画し、これから10年先の100周年を目指してさらに進化を続けてまいります。

私は学長就任以来、本学の国際化、グローバル化を目指し、世界ランキングに入る大学にしたいと考えてきました。本学は、2年連続で世界大学ランキングにランクインし、今年898位になり教員対学生比率は世界第3位。国内の医科系大学での順位はトップ7位、関西の私立大学中2位となりました。大学の評価は卒業生が創るものです。皆さんの活躍は本学の誇りでもあります。より質の高い医学・医療の提供、研究力の向上、グローバルリーダーの人材育成、国際認証の受審、海外医療支援活動の充実など「世界に開かれた大学」を目指していきたいと考えています。またそこから生まれた成果を“関西医大ブランド”として医療界、産業界、一般社会に、さらに世界に発信していきたいと考えています。そのためには皆さんの若い力とエネルギーが必要です。母校の更なる発展を願い、皆さんと共に頑張りたいと思います。

最後に今一度、皆さんは「慈仁心鏡」の精神を忘れず、それぞれのプロフェッショナルの道を究め、そして生涯にわたって活躍されることを信じ学長告辞とします。本日は誠にありがとうございます。



## 大学関係役員

4月1日から、大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田 幸一	学生部長	福永 幹彦	附属生命医学研究所長	木梨 達雄
副学長	松田 公志	学生部副部長	中村 加枝	総合研究施設長	赤根 敦
副学長・医学部教務部長	野村 昌作	〃	中川 淳	実験動物飼育共同施設長	平野 伸二
副学長	木梨 達雄	学生部副部長(看護学部)	近藤 麻理	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
看護学部長	片田 範子	大学院医学研究科教務部長	藤澤 順一	入試センター長	中川 淳
看護学部教務部長	加藤 令子	大学院医学研究科教務部副部長	蔦 幸治	医学教育センター長	西屋 克己
医学部教務部副部長	赤根 敦	大学院看護学研究科教務部長	林 優子	国際交流センター長	鈴鹿 有子
〃	北脇 知己	附属図書館長	高橋 寛二	学医	塩島 一朗

## 2019年度医学部クラスアドバイザー、看護学部クラス担任

2019年度のクラスアドバイザーおよびクラス担任が次の通り決定しました。

### 【医学部】

第1学年	木村 穰 教授 (健康科学)	第4学年	赤根 敦 教授 (法医学)
第2学年	北脇 知己 教授 (数学)	第5学年	齋藤 貴徳 教授 (整形外科)
第3学年	人見 浩史 教授 (iPS・幹細胞再生医学)	第6学年	岩井 大 教授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

### 【看護学部】

1年次	太田 祐子 准教授 (看護学教育領域)	2年次	山下 裕紀 准教授 (基礎看護学領域)
-----	---------------------	-----	---------------------

## 慈仁会定期総会・看護学部保護者会総会を開催

4月5日(金) 14時40分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「平成31年度慈仁会定期総会」が、4月4日(木) 15時から枚方学舎看護学部棟2階講義室1において「平成31年度関西医科大学看護学部保護者会総会」が開催されました。なお、本年度の慈仁会および看護学部保護者会主要役員は以下の方々です。

### 平成31年度慈仁会主要役員

- ・委員長 中村 登
- ・会計委員 重山 文子
- ・監事 田鍋 貴子
- ・監事 羽原 弘造

### 平成31年度関西医科大学看護学部保護者会役員

- ・会長 藍原 雅代
- ・監事 後藤 千秋
- ・理事 三宅 千鶴
- ・理事 山本 綾
- ・会計 橋本 廣明
- ・監事 後藤 宏美
- ・理事 村本 郁子
- ・理事 吉松 佳子

## 医学部講座の再編について

2018年9月付で「医化学講座」「化学教室」が「医化学講座」へ、2019年4月付で「解剖学第一講座」「解剖学第二講座」が「解剖学講座」へ、それぞれ再編されました。

## THE世界大学ランキング日本版2019に本学がランクイン

3月27日(水)、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE)」が実施・集計した世界大学ランキング日本版が発表されました。その結果、本学は『141-150』位グループにランクインしました。当ランキングの詳細については タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) のホームページ (<https://www.timeshighereducation.com>) をご覧ください。



認定証

## 2019年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(金)	入学式
4/8(月)	新入生健康診断
4/9(火)・4/10(水)	新入生オリエンテーション
4/11(木)・12(金)	合宿研修
4/15(月)	情報処理関係オリエンテーション
4/16(火)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
6/30(日)	創立記念日
7/16(火)～7/23(火)	試験期間
7/23(火)	1学期終講
7/24(水)～8/23(金)	夏季休業 (期間内に早期体験実習)
8/26(月)	2学期開講
8/26(月)～8/28(水)	試験期間
11/1(金)～11/3(日)	大学祭
11/25(月)～11/29(金)	早期医療実習
12/10(火)～12/17(火)	試験期間
12/17(火)	2学期終講
12/18(水)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/6(月)～1/8(水)	試験期間
1/27(月)～2/25(火)	試験期間
2/21(金)	総合試験
2/25(火)	3学期終講
3/4(水)	卒業式

2学年	
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
5/15(水)	解剖体追悼法要
5/17(金)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/16(火)～7/18(木)	試験期間
7/18(木)	1学期終講
7/19(金)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
8/26(月)～8/30(金)	試験期間
11/1(金)～11/3(日)	大学祭
11/14(木)～11/15(金)	試験期間
12/13(金)～12/20(金)	試験期間
12/20(金)	2学期終講
12/23(月)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
2/17(月)～2/21(金)	試験期間
2/27(木)	総合試験
2/27(木)	3学期終講
3/4(水)	卒業式

3学年	
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
5/15(水)	解剖体追悼法要
5/16(木)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/8(月)～7/16(火)	試験期間
7/16(火)	1学期終講
7/17(水)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
11/1(金)～11/3(日)	大学祭
12/17(火)～12/19(木)	試験期間
12/19(木)	2学期終講
12/20(金)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/27(月)～2/21(金)	配属実習
3/3(火)	3学期終講
3/4(水)	卒業式

4学年	
4/8(月)	1学期開講
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
5/15(水)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/22(月)～7/24(水)	試験期間
7/24(水)	1学期終講
7/25(木)～8/23(金)	夏季休業

4学年	
8/26(月)	2学期開講
11/1(金)～11/3(日)	大学祭
12/9(月)～12/16(月)	試験期間
12/16(月)	2学期終講
12/17(火)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/8(水)	共用試験CBT
2/15(土)	共用試験OSCE
2/17(月)～2/27(木)	プレクリニカル・クラークシップ
2/27(木)	3学期終講
3/4(水)	卒業式

5学年	
4/1(月)	1学期開講
4/1(月)～3/13(金)	臨床実習
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
5/16(木)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/26(金)	1学期終講
7/29(月)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
8/30(金)	CC中間検討会
9/7(土)	中間試験
12/27(金)	2学期終講
12/30(月)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
2/14(金)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/4(水)	卒業式
3/13(金)	3学期終講

6学年	
4/1(月)	1学期開講
4/1(月)～6/28(金)	臨床実習
4/30(火)～5/2(木)	休講 (5月連休)
5/15(水)	学生定期健康診断
6/30(日)	創立記念日
7/19(金)・7/20(土)	PostCC-OSCE
7/20(土)	1学期終講
7/22(月)～8/23(金)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
8/27(火)	卒業試験①
8/29(木)～11/15(金)	まとめの講義 (予備・自習含む)
10/21(月)～10/25(金)	卒業試験② (4日間の内で2日 (予備含む))
11/19(火)・11/20(水)	卒業試験③
11/22(金)	2学期終講
11/25(月)	冬季休業開始 (以降自習期間)
12/26(木)	第2回卒業判定用試験
3/4(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

## 2019年度 看護学部教務関係日程表

1年次・2年次	
4/4(木)	入学式
4/3(水)～4/5(金)	2年次オリエンテーション
4/5(金)～4/10(水)	新入生オリエンテーション
4/9(火)	健康診断
4/11(木)・12(金)	新入生合宿研修
【1年次】4/15(月)	1学期開講
【2年次】4/8(月)	
4/27(土)～5/6(月)	GW
6/30(日)	創立記念日
7/8(月)～7/12(金)	学期末試験期間
7/12(金)	1学期終講
7/16(火)～8/24(土)	夏季休業
8/26(月)	2学期開講
11/1(金)～11/3(日)	大学祭
11/18(月)～11/22(金)	学期末試験期間
11/22(金)	2学期終講
12/9(月)	3学期開講
12/23(月)～1/4(土)	冬季休業
3/2(月)～3/7(土)	学期末試験期間
3/7(土)	3学期終講

## 大学災害避難訓練実施

1月16日(水)枚方学舎において教職員・全学生を対象とした医学部・看護学部合同の災害避難訓練が実施されました。本訓練は昨年6月に発生した大阪府北部地震における反省と教訓を踏まえ、円滑な避難行動及び安否確認ができるよう大学全体で訓練に取り組み、防災意識の向上を図ることを目的としています。

訓練は枚方地区において震度6強の地震が発生し、枚方学舎医学部棟・看護学部棟が被災した想定で実施。11時15分に訓練の全館放送により避難指示が出され、防災・危機管理班の誘導の下、学生及び教職員が医学部棟1階メインエントランス前に避難し、点呼及び安否確認を行いました。

総括として野村昌作副学長(内科学第一講座教授)が

「全体としては問題なく実施できたが、一部集中できていない学生がいたのでそこは反省してほしい」と述べ、訓練は終了しました。

今後も継続的に訓練を実施していく予定です。



医学部棟前に避難する学生・教職員

## 看護学部・看護学研究科新設記念講演会開催

2月11日(月・祝)13時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、看護学部・看護学研究科新設記念講演



講演で聴衆に語り掛けるメレイス教授

演会—ここから看護学教育が変わる—が開かれました。看護における Transitions theory を開発した、著名な看護理論家であるペンシルバニア大学アファフ・I・メレイス教授が“Inspiring the Next Generation of Nursing Scholars”と題し講演。世界的に著名な研究者の講演を聞くことができる機会に、182名が集まりました。

友田幸一学長、看護学部片田範子学部長(看護学研究科長)の挨拶の後、講演がスタート。

メレイス博士は、看護理論発展の変遷や各理論の詳細、看護学が社会に果たす役割、今後の看護学の発展や看護学の研究者に期待されることなどについて、熱く語りました。

## 「自然災害に備えてこどもの力を高めるために」セミナー開催

3月16日(土)13時から枚方学舎医学部棟1階第1講義室において、災害に備えるこどものセルフケア能力に関するセミナー「自然災害に備えてこどもの力を高めるために」が開催されました。これは、科学研究費助成事業基盤研究(B)に採択された研究課題「障がいのあるこどもが自然災害に備えセルフケア能力を高めるための支援構築」の成果として、開発中の教育ツールや介入効果を紹介するために開催されたものです。

兵庫県立大学看護学部勝田仁美教授の司会のもと、研究代表者である看護学部加藤令子教授が、障がいのあるこどもの災害時における状況や、教育ツールを開発するに至った経緯などを説明した後、茨城県立水戸飯富特別支援学校岡本功教諭、同つくば特別支援学校富山比呂志教諭、同友部特別支援学校菊田利秀教諭、同水戸聾学校星伶哉教諭、同水戸特別支援学校檜佐誠教諭が、それぞ

れの学校でのツールを用いた介入事例を紹介しました。後半は、東京医科大学医学部看護学科小室佳文教授、常磐大学看護学部沼口知恵子准教授を交え、パネルディスカッションが行われました。

なお、同支援ツールは2019年夏に一般向けに公開予定です。



講演する加藤教授



## 第18回 関西医科大学医学会賞

2018年11月17日(土)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第18回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。第18回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名をご紹介します。なおこの3名には3月26日(火)15時30分から枚方学舎4階中会議室で行われた医学会賞贈呈式にて、賞が授与されました。

### 1位 角出 啓輔 研究員(iPS・幹細胞再生医学講座)

#### 演題「ヒト臍帯血CD34抗原陰性造血幹細胞を頂点とする新たな階層制モデルの提唱」

この度、関西医科大学医学会賞の栄誉に与り、欣幸の至りです。私は2013年大阪薬科大学卒業、同年本学大学院に進学しました。予てより幹細胞や再生医学に関心高かった私にとり、充実した研究環境を誇る本学でヒト造血幹細胞(HSC)研究に携われたことは大変な喜びでした。また、ヒトHSCは移植医療が最も普及した幹細胞ですが、その特性に関する多くの知見はマウス研究によるものである中、あくまで「ヒト研究」にこだわる菌田前教授への大きな共感と尊敬は今も深く心に刻まれています。さて、本研究では、世界最高水準のヒトHSC純化法の開発に成功し、特性の異なるヒトHSC同士の単一細胞レベル比較解析を可能としました。これにより、ヒト臍帯血CD34抗原陰性HSCは、従来知られたヒトHSCよりも更に高い未分化性と高い巨核球・赤芽球系統への分化能を有する可能性を明らかにしました。本純化法は、ヒト造血研究に更なる深化をもたらすとともに、移植用臍帯血の選別や品質保証への応用が期待されます。本研究に際して、篤い御指導・御支援を賜りました菌田前教授と旧衛生学講座の皆様、広島大学瀧原先生、京都府立医科大学浅野先生、iPS・幹細胞再生医学講座人見教授、服部研究教授、また、進学から学位授与に到るまで研究生活を大きく支えて頂きました本学大学事務部並びに附属生命医学研究所、慈仁会の皆様に、心より深甚なる感謝を申し上げます。



### 2位 山内 壮作 助教(小児科学講座)

#### 演題「A nuclear factor- $\kappa$ B inhibitor, dehydroxymethylepoxyquinomicin, ameliorates GVHD in allogeneic bone marrow transplantation」 (移植片対宿主病に対する新規NF- $\kappa$ B阻害剤dehydroxymethylepoxyquinomicin (DHMEQ)の治療効果)

この度、平成最後の関西医科大学医学会賞奨励賞を受賞させて頂き、大変光栄に存じます。私は平成24年に社会人大学院に進学し、主に、表題の新薬・DHMEQの治療効果に関する研究に取り組んで参りました。DHMEQは副作用が少なく、強力かつ同時に複数の炎症性サイトカインを抑制出来ることに着目し、表題のGVHDの治療だけでなく、敗血症、微小変化型ネフローゼ症候群についてもモデルマウスをもちいて、その治療効果を証明してきました。現在、ヨーロッパを中心にDHMEQの治療が進行中であり、臨床応用出来る日が近いのではないかと切に期待しております。最後に、この場をお借り致しまして、ご指導頂きました、河内総合病院小児科・下智比古先生、公立豊岡病院・病理診断科部長・足立靖先生、小児科学講座・主任教授・金子一成先生に深く御礼申し上げます。



### 3位 村上 綾 研究医員(神経内科学講座)

#### 演題「Aberrant accumulation of ErbB4 in progressive supranuclear palsy」

この度、関西医科大学医学会賞を授与いただき大変光栄に存じます。私は2015年に本学大学院に進学し、神経病理の研究に取り組みました。本研究では、進行性核上性麻痺について病理学的に検討した結果、受容体チロシンキナーゼであるErbB4蛋白質の関与が明らかとなりました。この研究を通して、研究の面白さ・奥深さなど様々なことを経験させて頂き、大変感謝しております。今回、このような受賞をいただけましたことは、指導医の先生に恵まれ、先輩・後輩に支えられたおかげです。この場を借りまして、ご指導いただきました日下博文教授をはじめとする神経内科学講座の皆様にも深く御礼申し上げます。



## 病理解剖岡野教務技師が文部科学大臣表彰を受賞

平成30年度医学教育等関係業務功労者に病理解剖の岡野公明主任(教務技師)が選ばれ、3月6日(水)文部科学省において行われた表彰式に出席。文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では、医学・歯学の教育や研究等の補助的業務において特に顕著な功績のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回、岡野主任が1992年の本学入職以来、26年余の長きにわたって病理解剖の円滑な遂行に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



賞状を手にする岡野主任

## 若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。

※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方にインタビューする連載企画です。

### 目の前の患者さんとそのご家族への貢献を目指して

#### —先生の研究テーマを教えてください。

心身医学が緩和医療において貢献できる領域全般です。がん患者さんとそのご家族が、がんという疾患があっても身体的、心理的、社会的には病人にはならず、生きていくことを、臨床と研究面で支えたいと考えています。

緩和医療では、がん診断時早期からの緩和ケアによるアプローチ思考型コーピング（自己対処など）に注目が集まっていますが、具体的な方法は定まっていません。そのため現在私は、がん患者さんが自身の症状を自己対処できたり、その自己対処の期待度を高められたり、家族介護者との相互作用を利用できたりするような方法を模索しています。具体的には、①不眠症状に対する在宅心身モニタリング、②がん患者における痛みの集学的セルフコントロール法の開発、③がん患者の個別化鎮痛目標に対する関連因子の検討と臨床応用、④トリガーポイント注射の即時効果による期待度の効果、⑤超音波ガイド下筋膜間注入法時における視覚的フィードバック、⑥在宅緩和ケアにおける家族介護

者による筋筋膜性疼痛に対する非侵襲的局所療法、⑦家族のセルフケアとしての手を握る行為、といったテーマで臨床研究を行っています。



#### —後輩研究者へのメッセージをお願いします。

医療者として、今ある資源を使うだけでなく、さらなる開発や可能性の拡大をしていく意識をもつことが大切だと思います。一般的な臨床研究の役割は未来の患者さんへの貢献ですが、私のようなニッチな領域の研究をされている先生方は、目の前の患者さんとそのご家族への貢献を目指すことに焦点を当てた



心療内科学講座  
蓮尾 英明 助教

#### ■主な受賞・競争的研究費採択歴

- 学会研究業績表彰
- ・2013年 日本心身医学会 第27回石川記念賞
- ・2015年 公益財団法人勇美記念財団 在宅医療研究助成
- ・2015年 公益信託今井きみ記念ストレス関連疾患研究助成
- ・2016年 日本心療内科学会 第11回河野賞
- ・2016年 第21回日本緩和医療学会 最優秀演題(疼痛部門)
- ・2017年 学内研究助成D1研究助成
- ・2018年 日本心身医学会 第16回池見賞
- ・2018年 第23回日本緩和医療学会 最優秀演題(疼痛部門)
- ・2018年 加多乃会研究助成 丹下雛子賞
- ・2018年 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
- ・2019年 公益財団法人笹川記念保健協力財団 緩和ケアに関する研究助成

臨床研究でも十分ですし、そう思うと肩の力を抜きながら気長にやっていけると思います。

### 肝細胞癌に対するウイルス療法や肝障害に対する新薬開発に取り組む

#### —先生の研究について教えてください。

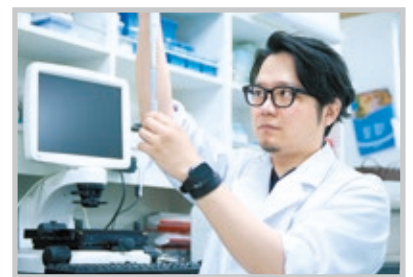
主に次の2つのテーマに同時に取り組んでいます。まずは「肝細胞癌に対する制限増殖型遺伝子組換えHSV-1を用いたウイルス療法」です。ウイルス療法とは、増殖型ウイルスを腫瘍細胞に感染させ、ウイルス増殖に伴うウイルス自身の直接的な殺細胞効果により治癒を図る治療法です。第三世代増殖型遺伝子組換えHSV-1であるG47Δは、現在製剤化が推進されているがん治療に適したウイルスです。G47Δの開発者である東京大学医科学研究所（藤堂具紀教授）との共同研究の一つとして、私はG47Δを基礎骨格としたIL-12などの免疫刺激遺伝子を発現する機能を「武装化」したウイルスを用い、肝細胞癌に対する効果検討を行っています。これにより治療選択肢の少ない難治性肝細胞癌の根治的な治療を目指しています。

もう一つは「敗血症に対するiNOS mRNAを標的とした新規核酸医薬の開発研究」です。肝臓では、炎症時に誘導

型一酸化窒素合成酵素（iNOS）遺伝子の発現誘導を介して、一酸化窒素(NO)の合成が促進されます。過剰産生されたNOは肝障害の一因子であり、iNOS誘導の抑制が肝障害の軽減に重要です。iNOS mRNAと同じ配列を持つ短いDNA（iNOSセンスオリゴヌクレオチド）を肝障害敗血症ラットモデルに投与したところ、iNOSやTNF- $\alpha$ 誘導を抑制し肝保護効果を示しました。本研究は、第一回学術祭において医学会優秀賞をいただきました。現在、iNOSセンスオリゴヌクレオチドに、体内で分解しにくく肝細胞に取り込まれやすくした化学修飾を行い、新たな研究を進展させています。

#### —研究への思いや後輩へのメッセージを

私は医師として患者に関わる中で、治療不能なケースを様々な経験してきました。そのため、治療成果の向上を考え、新規治療の開発研究を行っています。自分が正しいと思うことを継続する、しかも独力で行うことは大変難しいです。協



外科学講座  
中竹 利知 助教

#### ■主な受賞・競争的研究費採択歴

- ・2013-2017 東大医科研共同研究(分担)
- ・2014 慈仁会海外研究員派遣助成
- ・2014-2016 関西医大 Research Grant
- ・2015 関西医大加多乃会、藤原登美子賞ならびに櫻根啓子賞
- ・2015-2017 科学研究費補助基金基盤C分担(15K08602, 15K10176)
- ・2017-2018 科学研究費補助基金手B代表(17K18252)
- ・2017 関西医大医学会優秀賞
- ・2018 25th ICFFC: Best Oral Presenter

力者への感謝を忘れず、pay it forwardの気持ちで、正しいと思う道を進むことが大事だと思っています。

## 2019年度入学試験結果

2019年度入学試験結果は以下の通りです。

### 医学部入学試験

	日 程	志願者	合格者	入学者
学校推薦入学試験	2018年11月25日(日)	64	10	10
特色入学試験	2018年11月25日(日)	20	8	4
センター試験利用入学試験	二次:2月9日(土)	853	25	1
センター一般併用入学試験	一次:1月26日(土)	597	22	4
	二次:2月9日(土)			
一般入学試験(前期)	一次:1月26日(土)	2050	136	89
	二次:2月9日(土)			
一般入学試験(後期)	一次:3月2日(土)	461	6	14
	二次:3月12日(火)			

### 看護学部入学試験

	日 程	志願者	合格者	入学者
推薦入学試験	2018年11月18日(日)	107	30	30
一般入学試験	1月27日(日)	274	83	61
センター試験利用入学試験	大学個別試験:1月27日(日)	136	22	9

### 大学院医学研究科入学試験

	日 程	志願者	合格者	入学者
前期試験	2018年9月15日(土)	15	15	15
後期試験	2月2日(土)	20	20	20

### 大学院看護学研究科入学試験

	日 程	志願者		合格者		入学者	
		博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	2018年8月21日(火)	7	4	7	2	6	2
冬期日程	2018年12月2日(日)	5	6	5	4	5	4
追加募集	3月3日(日)	1	-	1	-	1	-

## 第113回医師国家試験結果

3月18日(月)第113回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者112名のうち103名が合格し、合格率は92.0%、新卒および既卒を合わせた本学の受験者123名のうち112名が合格し、合格率は91.1%でした。

今後も学生全員の合格に向け、サポート体制を強化する予定です。

## 平成30年3月度大学院学位記授与式挙行

3月26日(火)15時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、藤澤順一大学院医学研究科教務部長や指導教員らが列席し、「平成30年3月度学位記授与式」が挙行され、課程博士9名(欠席1名)、論文博士1名に、友田学長から博士(医学)学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労い、「博士号を得たものとしてふさわしい人生を送ってほしい」と、激励の言葉が贈られました。



博士(医学)の学位記を手に写真に納まる出席者



## 解剖学第一講座山田教授が最終講義

1月29日(火) 15時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、解剖学第一講座山田久夫教授の最終講義が開講され、山下敏夫理事長や友田幸一学長をはじめ、2学年学生、解剖学第一講座の教職員など約200名が参加しました。冒頭、友田学長が挨拶に立ち、山田教授の来歴を紹介した後「将来を期待しており、大学のために必要なときは協力をいただきたい」と今後の活躍を祈りました。

続いて登壇した山田教授は「形態学探索の軌跡」と題して、自身の半生を紹介しながら長年に亘る教育・研究活動を振り返りました。また、学生に向けて「いろいろな経験、見聞、出会いを重ね、広い知識と高い理念を持ち、自分の考えを育てて欲しい」と述べました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念写真を行って最終講義は閉講しました。



記念撮影に収まる山下理事長(右)、友田学長(左)、山田教授(中央)

## 平成30年度留学研究賞授与式

3月26日(火) 16時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「平成30年度関西医科大学留学研究賞授与式」が行われました。この賞は、本学の留学生が本学滞在中に執筆した学位論文に対して与えられるもの。平成30年度は、いずれも中華人民共和国から来学した王澤蘊さん(本学大学院医学研究科先端医療学専攻ブレインメディカルサイエンス系神経・内分泌機能再生医学)、来方远さん(医科学専攻高次機能制御系形成外科学)、姚錦春さん(同専攻生体応答系微生物学)の3名が受賞し、友田幸一学長から賞状と記念品が授与されました。



賞状を手に学長らと写真に納まる受賞者(後列)

## 「生活看護論実習Ⅰ」実習報告会開催

2月7日(木) 14時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、看護学部1学年の全学生100名が「生活看護論実習Ⅰ」実習報告会を行いました。「生活看護論実習Ⅰ」は、地域のケアシステム、社会資源について理解し、病院・施設における看護と地域看護の継続性、医療機関・保健福祉機関の連携の重要性を理解するため、地域に向いて実習を行う特徴的な授業で、高齢者サロンや子育てサロン等の地域で行われている活動に学生が継続的に参加し、地域で生活する人々の多様な価値観、生活様式を体験的に学習します。

報告会では、一年を通して実習に参加した学生が、実習で学んだことや感じたこと、それを看護の実践にどう生かすかの考察等の学習成果をグループごとに発表しました。

報告会には、実習受け入れの窓口となった枚方市社会福祉協議会の職員、各校区福祉委員会の委員などが多数訪れ、発表の後には学生らの発表に対して来場者からコメントや激励が贈られました。



発表する学生

病 院

## アレルギーセンターが市民公開講座を開催

2月9日(土) 14時から附属病院13階講堂において、同アレルギーセンター主催の市民公開講座が開催され、市民ら98名が参加しました。冒頭同センター金子一成センター長が挨拶を述べ、同センター小林良樹副センター長が座長を務め、講演がスタート。同センター河内理咲助教が「知っておきたい花粉症・鼻アレルギーの最新治療」を、同センター副島和彦助教が「子どもの食物アレルギー」を、市立岸和田市民病院呼吸器センター谷村和哉医長が「気管支喘息と上手につき合うために」を、附属病院アレルギーセンター神戸直智副センター長が「皮膚科医がおススメする外用剤の使い方」を、それぞれ講演しました。

また、2月3日(日) 14時からツイン21(大阪市中央区)第8・9会議室において、総合医療センターアレルギーセンター市民公開講座「アレルギー専門医の最新治療」が開催され、市民ら58名が参加しました。当日は総合

医療センターアレルギーセンター朝子幹也センター長が司会を務め、開会挨拶の後「最新の花粉尘治療と鼻のぜんそく」をテーマに講演。続いて同センター石浦嘉久副センター長が「よくわかる!ぜんそくのお話」を、同センター清原隆宏副センター長が「アレルギーを未然に防ぐ～スキンケアの重要性～」を、それぞれ講演しました。



詰めかけた出席者と講演する神戸副センター長(左奥)

附属病院

## 市民公開講座開催

1月19日(土) 14時から附属病院13階講堂において、附属病院市民公開講座が開催されました。今回は附属病院ハートセンターとの共催で、『虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)に関して』と題した講演に、市民89名が来場しました。

澤田敏病院長による挨拶の後、心疾患治療に携わる循環器内科藤井健一病院講師、心臓血管外科細野光治診療教授が狭心症・心筋梗塞の説明と内科・外科両方から治療のアプローチを紹介しました。また、健康科学センター宮内運動指導士からは心臓リハビリテーションに効果的な運動方法が紹介されました。

参加者からは多数の質問が寄せられ、講演終了後も個別

に回答。講演で紹介した外来を予約したいといった声も複数あり、健康について考える良い機会になったようでした。



宮内運動指導士の講演中挙手をする参加者

附属病院

## TAVI治療開始

附属病院は今年2月、TAVI(経カテーテル的大動脈弁植え込み術)実施施設としての認定を受け、3月18日(月)に第一症例となる治療を実施しました。TAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)は、大動脈弁狭窄症の治療を行う際、心臓が動いている状態で大きく開胸せずにカテーテルを使用し、新たな人工弁を心臓に植え込む新しい治療法です。患者さんの体への負担が少なく、手術が困難だった患者さんにも治療が可能となる他、早期にリハビリテーションが行えるため、1週間程度で退院が可能となります。

第一症例となったこの日はハートセンターでの症例検討の後、ハイブリッド手術室で最終シミュレーションを

行い、TAVIを施術。今後もハートセンターが中心となり治療を行っていきます。



治療を行うハートセンター医師と看護師



**附属病院** 死戦期帝王切開術シミュレーション訓練

2月15日(金)17時15分から附属病院5階総合周産期母子医療センター分娩室において死戦期帝王切開シミュレーション訓練が実施されました。これは、病棟で発生した心肺停止状態の妊婦に対し、母体救命のための帝王切開術を行い迅速な母体蘇生を行うための訓練で、産婦人科・麻酔科・救急医学科の医師・看護師など約30名が参加しました。

訓練では心肺が停止した妊婦に対し、BLS(一次救命処置)、死戦期帝王切開、胎児娩出のシミュレーション、参加者全員での振り返りを行いました。この訓練は今回が初めての実施で、課題や共有すべき点が多く見つかった

他、問題点について参加者同士が熱心に意見交換を行う姿が見られ、有意義なものとなりました。



訓練の様子

**附属病院** マラソン大会で附属病院看護師が人命救助

2018年11月25日(日)に開催された第8回大阪マラソンで、メディカルランナーとして参加していた附属病院看護部細川明日香看護師が、倒れている男性に蘇生活動を行い、救護しました。

「男性が倒れている」と呼び止められ現場に駆けつけた細川看護師は、他に集まった複数の医療従事者と協力しながらすぐに男性の状況を確認。脈が触れない状態であったため心臓マッサージを行い、AEDを使用、男性は心拍を取り戻しました。その後も男性への心臓マッサージを継続し、到着した救急隊へスムーズにとりつぎました。

救護に当たった細川看護師は「現場にいた皆でスムーズに協力でき救助につながったので、本当に良かった。また普段から心肺停止への対応を訓練していたので、とまどうことなく迅速に対応できた」と語りました。



救護にあたった細川看護師

**附属病院** 認知症と脳卒中をテーマに公開講座を開催

3月2日(土)10時から附属病院13階講堂において、脳神経外科学講座が主催する市民公開講座「認知症と脳卒中」が開催されました。これは、第77回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会のサテライトイベントとして開催されたもので、認知症や脳卒中に興味を持つ市民ら49名が参加しました。

この日は脳神経外科学講座羽柴哲夫講師が挨拶を述べ、引き続き「認知症について知っておきたいこと一原因とその対策一」を講演。認知症の症状と原因、最近の話題や患者さんへの接し方、脳神経外科領域における治療法などを解説しました。その後、同講座岩田亮一助教が登壇し、「その頭痛、実は危険なサインかも」と題して脳卒中や頭痛の発生原因と治療法、3Dプリンタを

用いたスキル向上の取り組み、早期発見のための脳ドック、予防法などを紹介。質疑応答でもたくさんの質問が飛び出すなど、公開講座は盛り上がりを見せました。



参加者からの質問に答える羽柴講師(右奥)



## 附属病院 地域医療連携部で院内見学ツアー開催

これまで附属病院地域医療連携部では、登録医の更なる拡大や初診紹介患者さんの増加を目的として院内見学ツアーを実施してきました。今年度は3月に5日間の日程で開催し、京都府綴喜地区、宇治・久世地区等の医療機関から医師や看護師あわせて7医療機関、26名が参加しました。

ツアーでは、参加者の専門領域にあわせて設けた「がんコース」と「母子コース」に分かれ、がんセンター、放射線治療室や総合周産期母子医療センター、小児医療センターなどを見学。両コース共通の目玉として、参加者はda Vinciのシミュレーター操作や、MR（※Mixed Reality：複合現実）による認知機能改善リハビリテーションシステム、歩行支援ロボットなどを体験しました。da Vinciの操作には苦戦しながらも貴重な体験に大いに盛り上がり、MRリハビリシステムや歩行支援ロボット

の体験では大学病院の最先端テクノロジーを知る良い機会となりました。

参加者からは「患者さんを紹介する際のイメージがしやすくなった」「医師と顔の見える関係づくりができた」などの意見が聞かれ、地域医療連携の強化が進みました。



da Vinciの操作を体験する参加者(左)(手術部の清潔区域外で実施)

## 総合医療センター 大阪府のがん予防学習活動に講師を派遣

2月15日(金) 13時25分から大阪市立井高野中学校(大阪市東淀川区)において、大阪府「がん予防につながる学習活動の充実支援事業」の一環で、同校に通う2年生112名を対象とした特別授業が行われました。この日は「がんの予防について」と題し、がんに関する正しい理解を促すとともに、命の大切さを考える態度の育成のため、総合医療センター血液腫瘍内科中谷綾講師が登壇。がんのメカニズムや発症の原因、診断法などの基本的な知識から、お酒やたばこの発がんリスク、最新の治療トレンド、チーム医療まで、わかりやすい言葉とイラストをふんだんに用いて解説しました。参加した生徒は、随

所にユーモアを交えた中谷講師の講演を興味深く聞き入っていました。



中学生に授業を行う中谷講師(右端)

## 総合医療センター 守口市・消防・総合医療センターが合同で災害訓練

3月21日(木・祝) 9時30分から大枝公園(守口市)において、「大枝公園ドクターヘリ離着陸等災害対応訓練」が開催され、本学総合医療センターから救急医学科中森診療教授とDMAT隊員ら5名が参加しました。これは、災害医療時において重要な関係機関の密接な連携を深化させること、及び昨年リニューアルで防災機能を備えた大枝公園の役割を周知すること、などを目的に実施された訓練です。

10時から開始された訓練は、地震によってハンドル操作を誤った自動車が多数の人と衝突しながら公園内に進入した、との想定でスタート。事故車両からの救出作業、現場トリアージ、二次トリアージ、搬送訓練と大きな混乱もなく進行しました。訓練終了後、中森診療教授

はつめかけた報道陣に対して「国や自治体、医療機関、消防・救急の連携は非常に大切であり、今回の訓練ではそれがより一層深まった」とコメントしました。



大勢の見学者の前で、トリアージを行う本学DMAT隊員ら

# 平成30年度附属看護専門学校卒業式



卒業証書を手渡す楠本学校長

3月4日(月) 10時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「平成30年度附属看護専門学校卒業式」が執り行われました。山下敏夫理事長や友田幸一学長、安田照美統括看護部長らが臨席するなか、71名の卒業生が、楠本健司学校長から医療専門課程専門士の称号を授けられました。学校長式辞、山下理事長祝辞、安田統括看護部長来賓祝辞、在校生の送辞では卒業生へのメッセージが贈られ、卒業生答辞では卒業まで支えてくれた方々への感謝の言葉が述べられました。

## 学校長式辞

学校長 楠本 健司

本日ここに卒業の日を迎えられた平成30年度卒業生71名(女子66名、男子5名)の皆さん!おめでとございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで皆さんを支えてこられたご家族・保護者の皆様に心よりお慶びを申し上げます。また卒業生を、学業の主に実習面で導いてくださった実習施設の皆様、並びにご多用の中、本日ここにご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学ですがその附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、87周年を迎え、過去4,536名もの正看護師を世に送り出してきた大変歴史ある看護専門学校です。さて、看護師としてのスタートを前に学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりのこころを育んでこられました。一方、学生生活では、球技大会、学校祭などのイベントを意欲的に企画し、多くの友人を得て、楽しい学生生活を送られたことと思います。また、実習や戴帽式、キャンドルサービス等の行事も体験しましたが、なかでも戴帽式ではナイチンゲール像から戴いたキャンドルのともしびは、皆さんが病院内をキャンドルを持って廻ることで患者さんたちの笑顔や自然に湧き上がる拍手になりました。これはまさに「看護の心」と言えます。

入学以来3年間の多くの勉学や実習を経て、単に試験を突破しただけでなく、先日のまとめの会での自ら看護師としての思いを交えた発表に至ったように、大きく成長しました。卒業のこの日を迎えたということは、本校が皆さんを看護の臨床の現場での行動力や態度を示すことができると認めた結果でもあります。今日の皆さんの白衣姿はこれから看護師という職業人として歩み出す覚悟と誇りの象徴であることをあらためて自覚しましょう。学生時代には、勉学や実習などで自分の範囲の責任を全うすればよかったのですが、これからは社会人として、倫理観と良識を身につけ、また医療

人の一人として深刻な病気や悩みを持つ患者さんや、そのご家族に対する責任を担うことを自覚してください。

しかしながら、実際に看護師生活が始まると、学生時代とは異なり、そこには多くの困難に直面することと思います。現代の医学や医療をもってしても、改善に向かわない患者さんを看護するときのストレスやジレンマ、また医学や看護学だけでは克服できない社会的障壁など、時に厳しい現実が待っています。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人のかかわりが基盤です。患者さんやその置かれた状況を理解し、時には共感し、協調する姿勢は極めて大切で、その繰り返しにより、患者さんとも、先輩や同僚、後輩たちとも、より良い人間関係を築き、必ずや人としても看護師としても大いに成長させてくれます。

本日、卒業という節目に当たり、「看護の魂」について皆さんと共にその心構えを考えたいと思います。本校での学校生活の間に出会った多くの人々や様々な出来事のおかげで、皆さんは今後の臨床現場で、一層心の目が開かれ、患者さんへの共感の幅が広がり、自らの人格が形成されることと思います。遠からず皆さんたち一人一人が大変忙しく、患者さんや同僚に必要とされ、必ずやこれを幸せと感じる人生が待っています。「忙しく、必要とされる」、皆さんにとってこれこそ看護をもって人の役に立つことであり、これに勝る幸せはありません。皆さんが手に持ったキャンドルのともしびによって患者さんたちの笑顔や拍手が得られたように、自らができることを常に「与える」ことにつとめましょう。

皆さん!これからも心身ともに健康で、「看護の心」を持ち、学びを重ね看護師生活を続けられ、この「看護の魂」を感じる看護師になられることを心より願っています。また、皆さん個人においては、これまでの成長と勉学を支えてもらったご家族への感謝を忘れてはいけません。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関、関係施設の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日ご出席いただきました皆様と共に、卒業生全員の看護師としての今後の成長と活躍を期待させていただきます。私の式辞と致します。



## 第108回看護師国家試験結果

3月22日(金)第108回看護師国家試験結果の発表が行われました。附属看護専門学校からは71名が受験し全員が無事合格、合格率100%となりました。なお、全国の合格率は89.3%、大阪府の合格率は94.8%でした。



卒後臨床研修センター

## 平成30年度臨床研修修了式

3月25日(月)午後4時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「平成30年度臨床研修修了式」が挙行されました。卒後臨床研修センター金子一成センター長から同院所属の44名の研修医に、総合医療センター杉浦哲朗病院長からは同センター所属の8名の研修医に、それぞれ修了証が授与されました。続いて、杉浦病院長から式辞が、西山順滋臨床研修医アドバイザーと金子一成卒後臨床研修センター長から祝辞がそれぞれ述べられました。

最後に、鈴木伸芳研修医代表が答辞を述べ、穏やかな雰囲気の中、閉式しました。



修了証を手渡す金子センター長(中央)

## 初期臨床研修医入職式・オリエンテーション実施

4月1日(月)10時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「平成31年度採用初期臨床研修医入職式」が挙行されました。卒後臨床研修センター金子一成センター長から、本年度採用の附属病院所属44名、総合医療センター所属7名の初期臨床研修医に辞令が交付され、白衣を授与された後、祝辞が述べられました。

入職式終了後、4月10日(水)までの日程でオリエンテーションを実施し、4月6日(土)・7日(日)にはホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において、1泊2日のワークショップを行い、各課題に取り組みました。

## 小児外科浦上研修医、大阪外科集談会最優秀演題賞受賞

小児外科浦上智加研修医が、第627回大阪外科集談会最優秀演題賞を受賞しました。

### ■浦上研修医コメント

第627回大阪外科集談会最優秀演題賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。発表の構成やスライド、考察や話し方まで土井教授をはじめ講座の先生には幾度も教えていただきました。後期研修医へステップアップするにあたり、大変貴重な経験となり、今回の経験をもとに一層邁進していきたいと考えております。最後になりましたが、集談会発表にあたりましては、土井崇診療教授、小児外科学の先生には御指導・御支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。







## 学会賞等受賞情報

2019年1月～3月の学会賞受賞者等を紹介します。

## 再生医療学会賞(基礎部門)

実験病理学講座 上野 博夫 教授

- テーマ 味蕾幹細胞の同定とそれを基点とした味覚感知機序の解明・味覚再生技術の確立
- 授与学会 第18回日本再生医療学会総会



## 平成30年度 第30回SGHがん研究助成

呼吸器外科学講座 齊藤 朋人 講師

- テーマ Invasive frontの3次元可視化と空間的病理解析による肺腺癌の浸潤機構の解明
- 授与学会 公益財団法人SGH財団



## 平成30年度コニカミノルタ画像科学奨励賞

実験病理学講座 厚海 奈穂 助教

- テーマ 蛍光特性を活かした次世代の細胞系譜追跡法の開発を通して、幹細胞による組織の構築・再生過程を可視化する
- 授与学会 公益財団法人コニカミノルタ科学技術振興財団



## 優秀発表賞

産科学・婦人科学講座 小林 真以子 大学院生

- テーマ ヒト子宮内膜における甲状腺ホルモンの役割とその分子機構の解明
- 授与学会 第19回日本生殖工学会学術講演会

## 2019年度 関西医科大学 オープンキャンパス日程

## 医学部

- 第一回 2019年 7月28日 (日)
- 第二回 2019年 8月 3日 (土)

## 看護学部

- 第一回 2019年 6月 2日 (日) **終了**
- 第二回 2019年 7月27日 (土)
- 第三回 2019年 8月18日 (日)



会場：関西医科大学枚方キャンパス  
開催時間やプログラム等の詳細は、受験生サイトをご覧ください。

受験生サイト

<http://www.kmu.ac.jp/juk/>



## 表紙写真紹介

## 「春爛漫、枚方」

撮影：朝子 幹也准教授 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

撮影者コメント 淀川の川岸に咲きみだれるなの花と新しく設立された大学舎と附属病院をフレームにおさめました。春らしい風景で、新学年をむかえて胸はずむ学生の姿が脳裏をよぎります。



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2019年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

附属病院	NHK「ニュースほっと関西」他 (1月7日)	日本で初めてとなる“男性の尿漏れ専門”の外来診療枠として「男性尿失禁外来」が附属病院に設置されたこと、およびその設置経緯や患者体験談を紹介する記者会見の様子が取り上げられました。
附属病院	朝日新聞朝刊、毎日新聞朝刊他 (1月8日)	日本で初めてとなる“男性の尿漏れ専門”の外来診療枠として「男性尿失禁外来」が附属病院設置されたこと、およびその設置経緯などが取り上げられました。
腎泌尿器外科 木下 秀文 准教授	フジテレビ系「とくダネ！」 (1月10日)	日本で初めてとなる“男性の尿漏れ専門”の外来診療枠として「男性尿失禁外来」が附属病院に設置されたことに伴い、「尿失禁」が起こる原因や生活環境の影響などについて解説しました。
関西医科大学 友田 幸一 学長	九州医事新報 (1月20日)	本学のタワー棟建設計画や、「新学部」[国際大学院(仮)]「最先端医学研究所(仮称)」の設置構想など、将来目指す方向について述べた、新年の挨拶が掲載されました。
内科学第一講座 吉岡 弘鎮 准教授	Medical Tribune (1月25日)	アジア人に多く、進歩の目覚ましい個別化肺がん治療の中でも特に治療成績が飛躍的に向上している上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異陽性非小細胞肺がん(NSCLC)の治療戦略について解説した記事が掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	読売テレビ「かんさい情報ネット ten.」 (1月31日)	「インフルエンザ」特集の中で夜中に子どもや高齢者が体調不良になった場合に、風邪薬を投与することの是非に関する「薬によってはインフルエンザ脳症などが重篤化する恐れもある」とのコメントが紹介されました。
看護学部 三木 明子 教授	南日本新聞 (2月6日)	訪問看護における暴力やセクハラ行為に関して、海外では警察官や警備員が同行する場合もあり複数名訪問を基本とした制度にすべきと指摘し、組織としての対応力を高めてほしいと述べたコメントが掲載されました。
内科学第一講座 伊藤 量基 准教授	産経新聞 朝刊 (2月13日)	競泳女子の日本代表選手が白血病を公表したことに対する「良い主治医を見つけ、前向きに治療を続ければ、治る可能性は十分にある」などのコメントが掲載されました。
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	手術数でわかるいい病院 2019 (2月26日)	“高齢者の肝がん手術”特集の中で、75才以上の高齢者に対する肝がん手術の有効性について検証した結果を解説し、「高齢者でも手術を選択したほうが良い」ケースもあるとのコメントが掲載されました。
脳神経外科学講座	認知症ねっと (2月28日)	脳神経外科学講座が主催する、第77回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会のサテライトイベント「関西医科大学脳神経外科学講座 市民公開講座」が取り上げられ、開催日時や会場、プログラムなどイベント概要が紹介されました。
腎泌尿器外科学講座 木下 秀文 准教授	毎日新聞 朝刊 (3月6日)	附属病院に日本初の「男性尿失禁外来」が1月に開設されたことを取り上げた記事で、前立腺全摘除手術後の尿失禁を治療する「人工尿道括約筋植え込み術」の解説と、「(患者さんに)少しでも快適に過ごしていただくために力になっていきたい」などのコメントが掲載されました。
解剖学第一講座 山田 久夫 教授・ 小池 太郎 助教	日刊工業新聞 (3月13日)	神経細胞周辺の環境維持や代謝などを行うグリア細胞の一種とみられる新種の細胞を発見し、さらに細胞の3次元データを3Dプリンターで出力して詳細な構造や、細胞同士のつながりを観察する手法を確立した研究に関する記事が掲載されました。
救急医学講座 寺嶋 慎也 助教	日本経済新聞 朝刊 (3月18日)	カフェインの過剰摂取による急性中毒について取材を受け、附属病院高度救命救急センターの急性カフェイン中毒症例が紹介されるとともに、「カフェインを大量に摂取した場合は一刻も早く治療することが重要」とのコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

受験生向けの入試情報サイトをリニューアルしました。オープンキャンパスや入試情報、学科の最新情報などを随時発信していきますので、是非ご覧ください。(さ)

## 関西医科大学広報 Vol.45

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2019年6月28日(金)発行